

共にしあわせ産みだす党 日本共産党 市議団ニュース

第2072号 2023年08月27日

日本共産党 根室市議団

根室市宝林町4-203 TEL0153-23-6023



戦後78年 恒久平和への誓いあらたに 第41回 根室市戦没者追悼式

8月15日、根室市戦没者追悼式が市総合文化会館が行われ、遺族はじめ関係者が参列し、戦災で亡くなった方々の冥福を祈り、不戦や恒久平和への誓いを新たにしました。

正午の時報に合わせて参列されたご遺族や関係者らが黙祷し、献花を捧げました。市長の式辞や遺族代表のあいさつでは不戦や恒久平和への誓いが述べられました。

根室市戦没者追悼式は昭和58年に戦没者慰霊祭が中止され、追悼方式になってから、今回で41回目。

ご遺族も高齢となる中、追悼式に参列される方々は年々減少傾向と聞きます。戦争を経験した方々が亡くなることは悲しいことですが、78年間、日本が直接戦争に加担することがなかったことは先人の弛まぬ努力の結果であり、我々も引き継いでいかなければなりません。

そうした中、子ども達や若い世代に戦争の実相を伝え、自らの問題として考えていくためのきっかけとして、こうした追悼式の今後のあり方についても考えていく必要があると思いました。

市内の「戦争遺産」を今後、 どのように活用していくか



戦争の記憶を後世に伝えていくための取り組みの一つとして市内の「戦争遺産」をどう活用するかという課題があると思います。戦時中に旧日本軍が構築したトーチカや塹壕跡、飛行場跡や掩体壕などが市内に多数残されています。旧海軍の施設が歴史と自然の資料館として活用されている他、これまで開発行為を逃れて現存している史跡もありますが、その他まだ十分な調査がなされていない遺構等も残されていると聞きます。

しかしその多くは80年近い年月の中で自然劣化が進み、あるいは開発行為等により、いずれ無くなってしまふものと思います。これまでも党市議団は繰り返し議会で議論してきましたが、戦争遺産に対して調査・研究を進め、あるいは可能なであれば何らかの形で保全する方策が無いのか検討すること。そして戦争遺産が伝える当時の「記憶」をどのような形で市民の学びに活用し、後世に引き継いでいくのか、ということ。これらに対して根室市として基本的な考え方をしっかりと定めていくことが必要と考えます。

親潮の南下弱化和黒潮の大蛇行等で道東海域の高温化 水産業講演会「水産関係者との意見交換会」

8月7日、一般社団法人漁業情報サービスクラスター主催の水産関係者との意見交換会が北方四島交流センターで開催され、サンマやマイワシ、サバの海況・漁況予報や資源の見通し等について水産関係者等に解説されました。



根室の経済を支えるサンマは不漁が続く、全国的には昨年度も過去最低を更新して1万7910tでした。過去2008年には34万3225tが記録されています。今年も今月より出漁されていますが、今後の見通しはどうなるのでしょうか。

水産研究・教育機構水産資源研究所の黒田氏は「近年の日本周辺太平洋の海洋環境」として、2010年代中盤以降、親潮の道東以南への南下貫入が弱まっていること、また黒潮は大蛇行期間が続いているが、極端に北側に寄っており、この同時発生が道東海域等に顕著な高水温化を引き起こしていること等が報告されました。

また同研究所の宮本氏は「2023年度サンマ長期漁海況予報」について、6-7月に実施した調査結果から今年の漁期の来遊量は海洋環境等の状況もあり昨年と同様の低水準となること、また漁場は漁期を通じて公海が中心となる見込みであることが説明されました。

このほか同研究所の由上氏は「マイワシ・マサバの資源動向」について、マイワシの資源量は緩やかな増加傾向、マサバについては資源量は横ばいだが海洋環境の影響から昨年より日本近海での漁場形成が不調であることについて説明していました。

根室市福祉団体スポーツ交流会が 4年ぶりに開催されました



8月5日、「第30回 根室市福祉団体スポーツ交流会」が市青少年センターで開催され、市内の障害福祉事業所や福祉団体等に所属する約70名が参加されました。

市内の障害福祉団体などで構成される実行委員会と根室市中心身障害者(児)団体連絡協議会が主催し、また根室ライオンズクラブさんと根室市社会福祉協議会の方々は、当日も早くから準備・運営等でも尽力されておられました。

参加者は灯油缶を叩いてリレーする「ガンガンたたきリレー」や「紅白玉入れ」など、競技に一生懸命取り組んでました。

コロナ禍で4年ぶりの開催です。感染対策に気を使ながらも、これまで取り組まれてきたイベントが徐々に復活してきています。いつまでも元気にこうした取り組みを続けていけたら良いですね。